

## 「MSC ベリッシマ」の那覇発着ショートクルーズ乗船レポート

2025.1 池田良穂

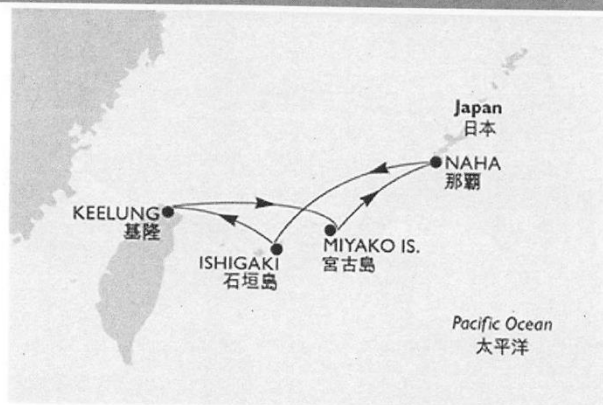
### プロローグ

「MSC ベリッシマ」は、今冬も、沖縄発着のショートクルーズを昨年 12 月から今年の 1 月にかけて実施しました。大型船によるカジュアルクルーズとしてフライ&クルーズを大々的に行うという、日本においては画期的な商品であり、日本外航客船協会の「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2024」の優秀賞を受賞しています。

昨年は、同船の、横浜を出て基隆と石垣島に寄港して那覇で終わる片道クルーズに乗船していたのですが、今回は、関西発着のフライ&クルーズにトライしてみました。那覇を出て、石垣島、基隆、宮古島に寄港する 5 泊 6 日のクルーズで、1 泊当たりになるとベランダ付きのキャビンでも 1 万円台と非常にリーズナブルな価格でした。



### あなたの航程



### EMBARKATION PORT

Naha, Japan

日	港	到着	出発
TUE 07/01/25	Naha, Japan	--:--	19:00
WED 08/01/25	Ishigaki, Japan	09:00	19:00
THU 09/01/25	Keelung,	07:00	--:--
FRI 10/01/25	Keelung,	--:--	18:00
SAT 11/01/25	Miyako Is., Japan	07:00	17:00
SUN 12/01/25	Naha, Japan	08:00	--:--

同クルーズを日本クルーズ&フェリー学会の乗船会として、本会会員に案内したところ、筆者夫婦を含めて6名の方々が参加しました。那覇までの飛行機はばらばらだったので、乗船後、避難訓練が終わった17時頃に、スカイラウンジで、一緒にクルーズをする6人と顔合わせをして情報交換をしました。その結果、夕食は全員が19時15分からのセカンド・シーティングで、同じテーブルだとわかり、クルーズ中には夕食以外は自由行動となることを確認して、それぞれにクルーズを楽しんでもらうことにしました。



那覇港の第2クルーズターミナルに停泊する「MSC ベリッシマ」

#### 便利なスマホのアプリ「MSC for Me」

MSC クルーズでは、無料アプリ「MSC for Me」をスマートフォンにダウンロードしておくとても便利でした。航程、出港時間、船内のイベント案内、レストランでのメニューまでいつでも確認できますし、各種イベント、特別レストラン、エクスカーションの予約も簡単にできます。さらに、同乗している家族・友人との連絡がチャットでいつでもできるという優れものでした。

#### 乗下船

事前に送られてきた資料には那覇での乗船は15時からとなっていましたが、10時から荷物の受付が始まるとの記載もあり、ホテルをチェックアウトして10時すぎには那覇港の第2クルーズターミナルに到着しました。このターミナルは、沖縄新港(安謝)の先端のコンテナ埠頭の隣に建設されたクルーズ専用岸壁に建てられたテント型の簡易施設です。タクシーを降りて、スーツケースのチェックインをしてもらうと、係員から「那覇市内に観光に出ますか、それともすぐに乗船しますか」と聞かれたので乗船手続きをしてすぐに乗船することになりました。10半過ぎにはテントの中でチェックインが始まり、乗船券を渡し、パスポートのスキャン、顔写真の撮影をすると、すぐに乗船することができました。対面でのCIQもなく、時間もかかりませんでした。パスポートは、クルーズ最終日の前日に部屋に届けられるまで船に預けたままでした。キャビンの準備ができるのは14時頃とのこと

でしたので、15 階のbuffetレストラン「マーケットプレイス」にテーブルを確保して、食事を楽しみながら待ちました。14 時にはキャビンの用意ができたとのアナウンスがあり、11 階の最船尾にあるキャビンに向かいました。船尾に向かってひらけたバルコニーは結構広く、なかなか快適な部屋でした。

各寄港地では、ほとんど待機時間もなく、乗下船ができました。基隆では、パスポートのコピーが配布されて、それを持って下船するようにとの指示がありました。

台湾に出国時および台湾からの帰国時も、パスポートは船に預けたままで、なにもしない間と出入国審査は終わっていました。ただはね日本人以外の乗客には対面の出入国審査があったようです。

#### インターポーティングによる集客

今回のクルーズではフライ&クルーズによる日本各地からの集客と共に、台湾での集客も大規模に行われるという「インターポーティング」という手法がとられていました。乗船したクルーズでは、台湾からの乗客が 2200 人余り乗船しており、乗船客の約半分が台湾人という状況でした。さらに韓国人乗客も 200 人余りが那覇まで飛んできて乗船しており、船内は、国際色豊かな状況となりました。したがって船内アナウンスは英語、日本語、中国語、韓国語で行われましたし、ショーの時の司会はアメリカ人のクルーズディレクターが行っていましたが、日本人、中国人のアシスタントの通訳がついていました。昨年 11 月に乗船したジャパネットのチャータークルーズでは、日本人アシスタントが司会を 1 人でしており、たまたま、エレベーター内で会った同じ女性クルーズディレクターが、「私も日本語を覚えたい!!」と訴えていましたが、今回のクルーズでは彼女がメインとなって、2 人の通訳がつくという形になっていました。

#### エンターテイメント

ロンドンシアターでのショーは、毎晩あり、2〜3 回の公演でした。スマホのアプリから予約をいれるようになっていましたが、開演 5 分前からは、予約をしていない人も入れるように配慮されていました。アメリカのクルーズ客船は、ショーを観ながら飲み物を飲むことができるのが普通ですが、MSC ベリッシマではシアターでのアルコール類の販売はありません。

ロンドンシアターでのショーは、歌と踊りで構成されたプロダクションショー、コメディショー、アクロバットショー等が行われていました。クルーズの最後の晩のショーは、全ての芸人が出演するバラエティ・ショーで、さらに最後に多くのサービス要員も壇上にあがっての合唱となり、観客も盛り上が

っていました。ラストインプレッションを強烈に与えて、次のクルーズにつなげるための大事なパフォーマンスになっています。

ロンドンシアターでの無料のショー以外に、有料のショーがカルーセルラウンジで開催されていました。アクロバット等のダイナミックな出し物で、ミュートとスイートの2つの内容の異なるショーが、飲み物付きで販売されていました。

これらの大きなシアターでの大規模なショーは大型船ならではの魅力となっていますが、各ラウンジ、ロビー等でも生演奏や歌が楽しめました。



乗船時のバラエティショー



司会をするクルーズディレクター(右)と、日本人と中国人の通訳が並びました。



ロックンロールをテーマにしたショーもありました。



女性歌手の名曲を中心としたショー



最後の夜は、全エンターテイナーと、船内サービスを担当した船員が並びました。



## プロムナードでのショー

MSC ベリッシマクラスでは、船内中心線に 90m 余りのプロムナードがあり、この天井は LED スクリーンとなっていて時間と共に変化するというショー仕立てになっています。このプロムナードにおいても各種のイベントが行われています。



## 食事

ふんだんな食事がクルーズのひとつの楽しみで、夕食は決まったレストランのテーブルで、航海中、決まったウェイターによってサービスされるという欧米風の伝統的ディナースタイルがとられています。同船のメインレストランは、6 階に 3 つ、5 階に 1 つあり、いずれかのテーブルが指定されていて、レストラン名とテーブル番号が各人の各自のクルーズカードに記載されています。担当ウェイターの名前は、テーブルの表示板に表示されていました。各テーブルには、もう一人、アシスタント・ウェイターが付きますが、その人の名前は表示されていませんでしたので、名前と出身国を聞いておきました。

ただし、上述のテーブルが指定されたメインレストランの他、buffetスタイルのマーケットプレイスでも、また 5 つある有料のスペシャル・レストランでも食事をとることができます。buffetレストランでは、朝から晩まで、料理の入れ替え時間帯に一時的に閉まることはありますが、自由に食事ができます。これは、カリブ海のクルーズ客船で始まったもので、もともとはプールサイドにあるカフェテリアというイメージでしたが、今では、どの船でも大規模なレストランとなっています。

朝食と昼食については、マーケットプレイスの他、メインレストランの 1 つが 2 時間ほどオープンされていて、テーブルサービスでの食事がとれました。この場合にはテーブル指定はなく、到着順

にレストランの入口で空いているテーブルに案内されます。

メインレストランの食事は、どこでも同じで、ファースト・シーティングとセカンド・シーティングの 2 回だけで、今回は 3 回目の設定はありませんでした。旅客数が少なかったためなのか、もしくは他のレストランを使う旅客がいたのかは定かではありません。

メニューは、前菜、スープ、パスタ等、主菜、デザートに別れていて、それぞれ 2～3 品が写真付きで掲載されていて選べるようになっていました。日本人向けに、一品一品の料理の量は、欧米で MSC の船に乗った時よりは控えめになっており、欧米人に比べると小食の日本人に合わせた盛り付け量になっているようでした。「足りない人は、もう一皿頼んでください」とう方針で、フードロスが減らすためにもよいやり方のように思います。

料理の味の好みは千差万別ですが、イタリア系の船だけあって、メインレストランの味付けは筆者には満足できるものでした。特にパスタやリゾットは、本場らしく、少し芯の残った本場らしいアルデンテでした。昨年 11 月に乗船したジャパネットのチャータークルーズの時よりは、一皿ごとの量も若干多くなり、5 泊のクルーズ中に立派なステーキも登場しました。前回はクルーズ 10 泊中に牛肉がでたのは 1 回だけで、それも薄い肉でした。自主クルーズとチャータークルーズの違いも、垣間見れました。



メニューの一例です。



ステーキも夕食に登場しました。



メインレストランで参加者有志との記念写真です。クルーズアカデミー等の 50 名余りを引き連れた本会会長の赤井先生にも入っていただきました。

## リピーター向けのパーティ

筆者の MSC のクルーズ客船の乗船は、今回で 5 回目でしたが、5 泊のクルーズ中にリピーター客(MSC ボイジャークラブ)対象のパーティの招待状が 2 回キャビンに届きました。1 回目はクルーズディレクターの招待で、18 階のスカイラウンジで開催されて、数人の士官が挨拶に立ちました。2 回目は船長からの招待としてカルーセルラウンジで開かれ、船長以下高級士官が挨拶に立ちました。



クルーズディレクター主催のリピーター客パーティでの挨拶。スカイラウンジでの開催でした。



リピーターのためのパーティでの船長の挨拶。カルーセルラウンジでの開催で、挨拶の後には短いショーもありました。



## 飲酒のできる年齢

飲酒のできる年齢は国によって違ってきます。この船の場合には、バーカウンターに「それぞれの国の年齢制限による」との表示がありました。とは言っても、アルコール類を頼むたびにパスポート等で年齢を確かめている風ではありませんでした。クルーズカードには、国籍と年齢が情報として入っているの、それで確かめているのかもしれませんが、そこは、確認できませんでした。



バーに掲げられていた「アルコールポリシー」です。



## 飲み放題パッケージ

最近のクルーズ客船では飲み放題パッケージを販売している場合が多く、MSC ベリッシマでも同様で、10ドルまでのアルコール類まで含んだ飲み放題パッケージは、1日74ドルとのことでした。74ドルと言えば、1ドル150円換算で1日1万円強の飲酒ですので、筆者にとってはちょっと飲み過ぎの感じがするので入るのを止めました。前回乗船した時の同船は、ジャパネットのチャータークルーズで、船上飲み放題でしたので、同様のパッケージが組み込まれていたようですが、クルーズ料金はそれほど高くはなっていませんでした。乗客全員がパッケージに入れば、アルコールを少ししか飲まない人や全く飲まない人もいるので、全員を飲み放題にしても1人当たりとしては1日当たり1万円にはならないということなのでしょう。アルコールまで入れたオールインクルーシブも、船側にとってはそう大きな負担にはなっていないのだと知りました。

## 船上研修で講演

本学会会長の赤井先生は、大学関係者のためのクルーズアカデミーの教員と学生、全国クルーズ活性化委員会の港湾関係者等、約50名を引き連れて乗船されていました。船内では、いろいろと研修をされており、その1つのイベントで筆者もクルーズに関する講演をさせていただきました。会場は、TVスタジオという7階の公室でした。同講演で使ったパワーポイントのファイルをご参考までに添付させていただきますので、ご興味があればご覧ください。

